組合だより

2013. 1. 7発行　第143号

札幌鉄工関連協同組合
・TEL 661-2648　・FAX 665-1408
http//www6.ocn.ne.jp/~s-tekkou/
E-mail : kanren00@poem.ocn.ne.jp

～　年頭にあたって　～

理事長　今 井 一 彦

組合員の皆様　新年明けましておめでとうございます。

健やかに新しい年をお迎えのことと思います。私、理事長に就任し２度目の新年を迎えましたが、この間組合員の皆様には組合活動に多大なご理解とご協力をいただきました。

特に役員、委員の皆様には組合事業について日頃より意見、提言をいただくとともに事業推進に協力願い、心から感謝を申し上げる次第です。

さて、当組合は、今年９月に創立５０周年を迎えます。その記念の行事につきましては昨年企画検討委員会を設置し、組合員皆様にアンケート調査を実施、その結果に基づきまして理事会において、その考え方や実施内容を取りまとめ、６月〝組合だより〟で概要をお知らせしたところであります。今後さらに検討することもありますので、その結果につきましては、改めて皆様にお知らせしたいと思います。

昨年を振りかえりますと、国の内外を問わず大変大きな出来事がありました。

主要国或いは近隣諸国で大統領選挙や指導者の交代が相次ぎ、また、中東各国での紛争の激化、さらにロシア前大統領の北方領土訪問、中国の尖閣諸島侵入や反日デモ、韓国大統領の竹島上陸等々我が国の外交に新たな火種が生じ、国内においては１２月の衆議院議員総選挙で、これまでにない多数政党乱立の中で自民党が圧勝し安倍新政権が発足、今後、ＴＰＰ、原発、外交等々山積する課題に取り組むことになりますが、今私共が望むのは景気対策と雇用の問題、とりわけ中小企業に対する金融対策であります。

一方、明るい話題もありました。山中伸弥・京都大学教授がｉＰＳ細胞の発見でノーベル賞を受賞、夏季オリンピックで過去最多のメダル獲得、しかも団体競技での活躍は我々に感動を与えてくれました。

道内においては、北海道新幹線の札幌延伸認可、日本ハムファイターズが栗山新監督のもと３年ぶりにパ・リーグ制覇、優勝パレードも記憶に新しいものであります。

さて、今年はどのような年になるのか、昨年の総選挙後、円安、株高の傾向が続いており、日本経済にとっては良い状況と言えますし、また政府の緊急経済対策で大幅な公共事業費、１２年度補正予算を考えているようですが、グローバル世界において米国のいわゆる「財政の崖」問題は一応回避されましたが、全面解決ではなく今後の行方によっては、わが国にもリーマンショック以上の影響が及ぶのでは、とも言われています。

道内経済は依然として景気回復を牽引するような明るい話題が見えない状況にありますが、我々中小企業は生き残るため懸命の努力をしております。組合員の状況を見ますと、この厳しい経営環境の中、これまで培われた知恵と工夫を凝らし昨年１社の脱落もなく、全組合員が揃って新しい年を迎えられました。何よりも喜ばしいことであります。今年もまた組合員同士連携し合いながら頑張っていきたいと思います。

終りになりますが、組合員皆様には、今年も組合活動に一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、この新しい年が皆様方にとって良い一年になりますよう、心からご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。

（東邦交通㈱　代表取締役）

～　平成２５年年頭挨拶　～

安全衛生協力会会長
小 泉 一 成

明けましておめでとうございます。心から新年のお慶びを申し上げます。

さて、中災防の年末年始のスローガンは、「あせらず　無理せず　油断せず　無事故でつなぐ年末年始」であります。

この冬は例年に比べ札幌市内は雪が多く、寒い日が続いております。この為に交通事情が極端に悪化し、ただでさえ師走の忙しさに拍車をかけ、新年になってもその状況が続いているのではないでしょうか？ そんな時、このスローガンを見て何を感じますか？ 立ち止まって「そうだな～、気を付けよう」と思い気を引き締める方と、見過ごしてスルーしてしまうケース、見ても「それどころでないと」気ぜわしく仕事に戻るケース等、様々あると思います。又、事故になる時も、気を付けていたのに事故になってしまうケースもあります。良くも悪くも問題意識をもって考えていく必要があるのではないでしょうか、答えは決して一つではないのです。模範解答ではなく多様な考え方を基に最善を尽くしていくことが重要だと思います。

私は昨年１０月に富山市で開催された全国産業安全衛生大会に久しぶりに行って来ました。

今回の特別講演はアルピニストの野口健さんでした。頂上まであと何百メートルという所で気象条件等を考慮し断念する決断力には感心させられました。素人考えでは９０％以上費やして最後の最後で断念するより、少々の危険を感じても突き進む方がいいのではないかと思ってしまいますが、命を懸けて取り組むわけですからそんな単純ではないのでしょう。話を聞いていて断念する勇気を教えられました。また、分科会は日本を代表する企業の発表が多く、自分の会社の参考には難しさを感じることが多くありますが、いい刺激を受けて帰ってきました。

年々仕事の難しさというより、今までおこなってきたことがそのままでは通用しない、新しいものに適応させる、柔軟に考える等、変化を敏感に感じ取って取り組んでいかなければならないことを痛切に感じています。昨年の年頭挨拶で「安全である為には何をすべきか」と言っておきながら、具体的に新たに何かやったのか？と思いつつ何事もなく１年が過ぎてしまうと「今年も一年、無事故、無災害で終わってよかった。」と単純に安心してしまいます。新しい年を迎え、試行錯誤の中にあっても「あせらず無理せず　油断せず」無事故で次年にバトンタッチをしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

（小泉建設㈱　代表取締役）

あとがき

組合員の皆様、明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

（事務局一同）